

# 長期経営計画「2035年ビジョン」

(2026年度~2035年度)

2026年5月22日

株式会社 安川電機

安川グループが目指す2035年に向けて

# 革新的な技術により 人類の課題解決に貢献

安川電機は1915年の創業以来、自らの技術をもって事業にあたるべく、「技術立社」を社是として掲げ、事業領域を「電動機（モータ）とその応用領域」としながら常に時代の最新技術にチャレンジしてきました。安川グループの使命は、その事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献することにあります。

前長期経営計画「2025年ビジョン」期間中は、グローバルにおいて経営環境が大きく変動しました。コロナウイルス感染症をはじめ、地政学リスクなど不透明な状況が続きながらも市場拡大の機会を捉え、事業を成長させてきました。

そのような中で、2026年度より長期経営計画「2035年ビジョン」を開始いたします。

安川グループ経営理念を軸として、ソリューションコンセプト“i<sup>3</sup>-Mechatronics”<sup>\*1</sup>をAIによってさらに拡張・飛躍させます。そして、データによる経営の最適化、ものづくりの革新、現場(社会)への実装につなげる“i<sup>3</sup>-Singularity”<sup>®\*\*2</sup>の新たな世界を広げていきます。私たちはこれからも社会に求められる企業であり続けます。

\*1: i<sup>3</sup>-Mechatronics (アイキューブメカトロニクス) : 当社が1969年に提唱した「メカトロニクス (メカニズムとエレクトロニクスを融合した造語)」に3つの“i”(integrated:統合的、intelligent:知能的、innovative:革新的)を重ね合わせ、お客様の経営課題の解決に寄与するソリューションコンセプト

\*2: i<sup>3</sup>-Singularity (アイキューブシンギュラリティ) : これまで取り組んできたi<sup>3</sup>-MechatronicsにAIを組み合わせることで、その実行力を拡張・飛躍させていく考え方。i<sup>3</sup>-Mechatronicsで進めてきたデータ活用をさらに発展させ、判断と実行をデータとAIを前提とした再現性のある仕組みとして構築することで、お客様の現場における自律分散、無人化、全体最適化の実現に貢献していきます。あわせて、当社においても「開発・生産・経営の判断」を組織として再現性のある判断・実行の仕組みとして構築していきます。

# 安川グループ経営理念と2035年の目指す姿

## 経営理念を実践し、革新的な技術により 人類の課題解決に貢献する

### 経営理念

#### 存在意義

安川グループの使命は、その事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献することにある

#### 価値観

安川グループは使命達成のために、つぎの3項目を掲げ、その実現に努力する  
品質 利益 市場

#### 行動指針

私たちは、当社の伝統を尊重し、経営理念の実現に努めるとともに、世間の信頼を高め、もって会社の繁栄と自らの幸福を求めます

### 2035年の 目指す姿

#### 環境変化

技術革新

社会構造変化

持続可能性

世界競争・共創

## 人類の課題解決に貢献

#### ソリューション

*i*<sup>3</sup>-Mechatronics<sup>®</sup>



*i*<sup>3</sup>-Singularity<sup>®</sup>

YDX

Ecosystem

# 安川グループの「2035年ビジョン」

## 技術革新によりMechatronics領域を拡大し 社会の持続的な発展に貢献する

~2025

2035 and beyond

変わらないこと

【事業領域】 モータとその応用領域

【基幹技術】 モーション制御/パワー変換/ロボット技術



i<sup>3</sup>-Mechatronics  
i<sup>3</sup>-Singularity

YDX

Ecosystem



コア領域

i<sup>3</sup>-Mechatronicsを軸とする  
自動化領域

フィジカルAI市場

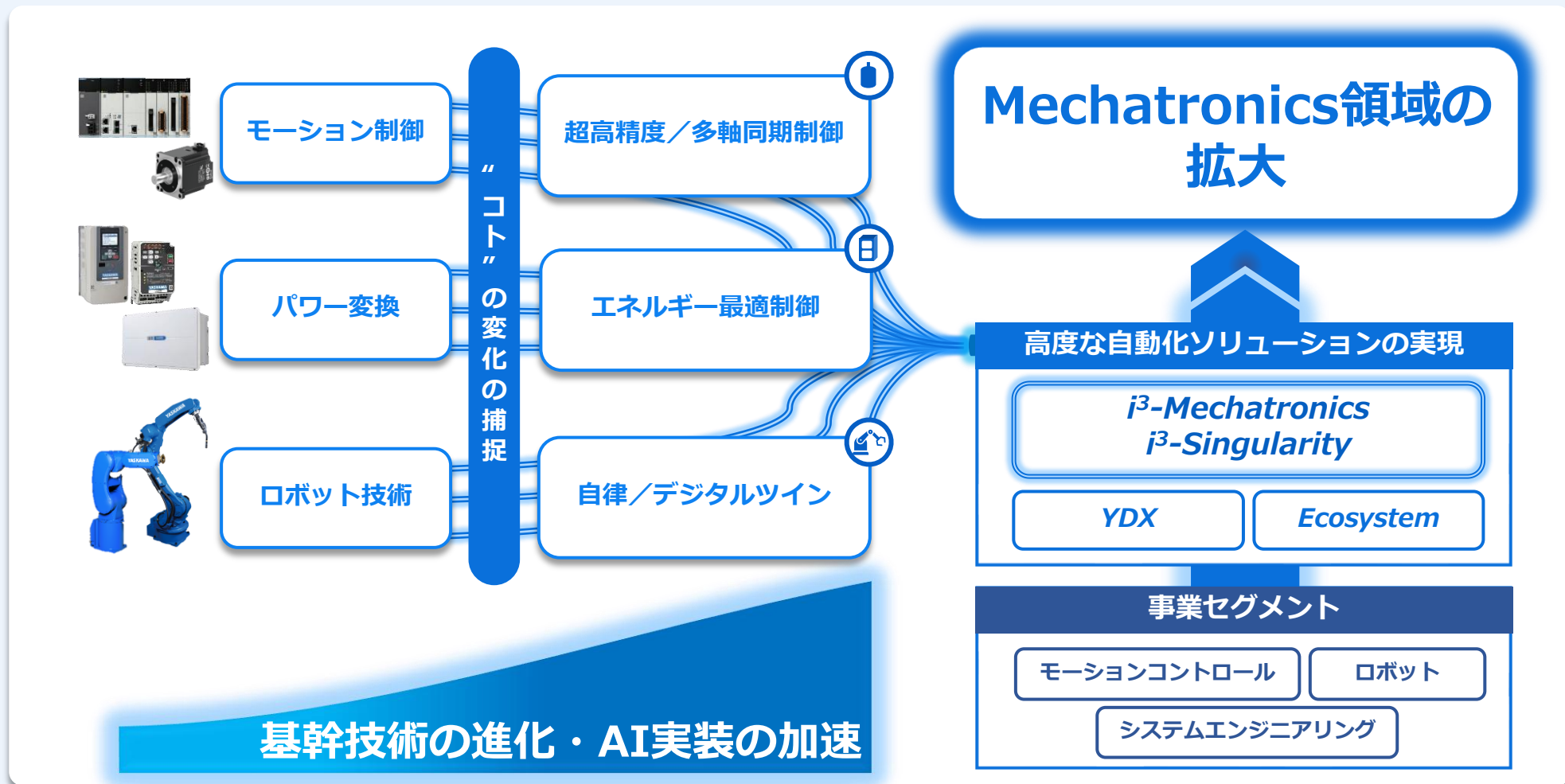
当社製品にAIを融合させ、自動化が  
困難だった領域で新たな自動化を実現

新メカトロニクス応用領域

基幹技術を核とした  
新規分野での自動化拡大

# Mechatronics領域の拡大を実現する基幹技術

“コト”の変化を捉えて基幹技術を進化させ、  
高度な自動化ソリューションを実現する



# コア領域

## AI×データによりモノ・モノづくりを進化させ、 未来のスマートファクトリを実現する

### 未来のスマートファクトリを実現



モータ・ロボット技術の徹底追求・  
エネルギー変換効率の最大化



モノの進化



モノづくりの進化

超精密モータ&コントローラ

高効率インバータ&パワコン

AIロボティクス

AI  
実装



*i<sup>3</sup>-Mechatronics*

変種変量・工程変化の対応

カーボンニュートラル貢献

データの一元管理・高度化

データ  
活用

## 新メカトロニクス応用領域

多様なパートナーとのエコシステム構築で新メカトロニクス応用領域を拡大し、  
持続可能な社会の実現に貢献する

### 持続可能な社会の実現に貢献する

医療・医薬品分野における  
共創加速



医療現場における自動化

創薬のデジタル化

再生医療の自動化

食・農業分野自動化の  
飛躍的拡大



食品生産工程の自動化

店舗調理の自動化

屋内外栽培の自動化・効率化

# フィジカルAI市場

## 基幹コンポーネントのポートフォリオ拡大で フィジカルAIの社会実装を実現する

### 世界一にこだわる新製品開発



基幹技術×現場データ×AIに  
よるシナジー発揮

企業間共創・産学連携含めた技術創出



基幹コンポーネントの  
ラインナップ拡大

MOTOMAN NEXT/  
ヒューマノイド/進化型アクチュエータ

当社製品にAIを融合させ、自動化が困難だった  
領域で新たな自動化を実現する

コア領域

新メカトロニクス応用領域

i<sup>3</sup>-Singularityi<sup>3</sup>-MechatronicsにAIを加えることで新しい世界(i<sup>3</sup>-Singularity)を広げる

**i<sup>3</sup>-Mechatronics (i<sup>3</sup>-(Mechanism + Electronics))**  
**i<sup>3</sup>-Singularity (i<sup>3</sup>-Mechatronics + AI)**

i<sup>3</sup>-Mechatronicsの実践拡大

- グローバル展開
- コア製品の販売スケール拡大



事業基盤の強化と拡大

i<sup>3</sup>-Singularityの新たな世界

## 1. データ経営のSingularity

- 経営の最適化
- サステナブルな成長



経営スピードの強化と高収益化

## 2. ものづくりのSingularity

- 生産革新
- 開発革新

ユニークな自社生産革新と技術開発革新を  
基軸とした世界一の製品の提供

## 3. 現場（社会）実装のSingularity

- 知能化機器の実用による社会貢献
- 自動化タスク・場面の拡大
- 現場データ活用の進化

AIロボティクスによる現場実装で  
課題の解決領域を拡大

## 「2035年ビジョン」の実現に向けた経営基盤の強化

### AI利活用によるYDXの深化と経営基盤の強化を通じて 安川グループの戦略実行力の最大化を図る

#### 経営基盤の強化

##### 人材の多様化と育成強化

- 表層／深層ダイバーシティの推進
- チャレンジする機会の提供と人材育成
- スキルデータに基づく最適人材配置

##### 働きがいと組織力の向上

- 健康・安全で、働きがいのある職場環境
- バリューチェーンの横断的活動強化
- AI利活用による生産性の飛躍的向上

人材力

ESG

AI × YDX

組織力

外部連携

##### ESGの推進による持続可能な発展

- 気候変動と資源循環に対する取り組み強化
- ステークホルダーとの対話と共創
- リスクマネジメント強化とガバナンス向上

##### 外部連携によるイノベーション創出

- 産産／産学連携によるイノベーション創出
- エコシステムの構築を通じた“コト”の実現
- 外部とのデータ連携によるタイムリーなソリューションの提供

#### 受け継がれる当社のDNA

技術立社

お客さま重視・  
アプリケーション重視

品質第一

メカトロニクス

方針管理

グローバル  
経営

## 2035年度の財務目標

営業利益率を重要KGIと置き、  
ステークホルダへの還元の充実を実現する

2025年度実績

2035年度目標

財務  
目標

営業利益率

8.7%

20.0%以上

配当性向

50.0%

40.0%以上

本資料に記載されている業績見通しは将来の予測です。当社が現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な原因には当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合がありますので、ご了承ください。

**YASKAWA**